

第3回学校運営協議会概要

- 1 日 時 令和3年2月24日(水) 18:00～19:00
- 2 場 所 本校会議室
- 3 出席者 内藤委員長含め10名の委員、本校職員5名
- 4 概 要 次のとおり

(1)今年度の反省及び学校評価に係る関係者評価について（教頭より説明）

(2)質疑応答

①令和2年度の見学旅行中止について、中止した経緯はどうか。他校でも中止した高校はあるのか。

(回答) 行き先や泊数の変更等、様々な手を打ちながら新型コロナウイルス感染症の動向を注視し、保護者に適宜情報の発信と参加の有無を確認してきたが、直近の調査で70%の生徒及び保護者から不参加の意向であることが判明し、中止となった。また、旭川市内等管内はもとより道内全域において中止となった高校があると伺っている。

②生徒の出願の概要について、各地域からの出願と昨年度等との比較してどのように考えているか。

(回答) 高校入試の再出願後の人数発表前なのではっきりしたことは言えないが、再出願前の30名からほとんど人数の変化がない。従って2間口に届かないかもしれない人数になることが予測されると見込んでいる。また、各地域からの出願については大凡4割程度が美瑛地区、残り6割が旭川地区。出願人数が減ったのは出願してきた中学校数が減っていること、また、一部を除いた中学校では志願者が1名だけということがあると考えている。私学の無償化に伴う措置が一因になっていると分析している。

③「地域創生に向けた高校魅力化の手引き」について、そこにも触れられているとおり、美瑛高校の特色を出していくことや、多様な生徒を受け入れ、そこで育てていくことが重要だと考えるが、その為の様々な環境整備（他地域から受け入れる場合の生活拠点や教育環境（ICT等）の充実等についてはどのように考えているか。

(回答) ご指摘のとおりそれぞれの充実は不可欠だと考えているが、それらをクリアするための諸課題（道立普通科としての生徒募集の枠組み、生活拠点を整備するための莫大な費用等）があるため、美瑛町とも連携しながら進めていくべきだと考える。

(意見) 昨年度に引き続き生徒の出願が40名をきるような状況の中で、間口減はもちろん、募集停止になりかねない危機的状況だと捉えている。高校を存続するためにどのような方策をとるべきかを議論すべきではないか。従前のような学校教育の充実という観点では立ちゆかなくなると考える。

(回答) これまで各委員から出された意見の実現した先に安定した生徒数の確保や本校の教育充実が図られると考えている。そのため今までの議論を越えてというよりは、それら募集停止を阻止する観点においても現在できることとしての意見を募っているので、改めてそういう観点での議論をお願いしたい。

(意見) 次年度に向けたICT教育環境の整備等が進んでいる実態を保護者として嬉しく思っている。こういった他校にはない、美瑛町や美瑛高校ならではの取組を広く情報発信していくことが重要だと考える。

(意見) 今年度の美瑛高校の先生方の熱心な取組によって、様々な面での成果が出ている。美瑛町民に「高校進学は旭川地区に」という雰囲気があるが、「美瑛高校に行ってもこういうところ（国公立大学等の多くの保護者が望むような進路先）に行けるよ」というような情報が広まるような取組に努めて欲しい。

(回答) 情報の発信源の一つとして学校案内のパンフレットやポスター等があるが、前回の運営協議会の中での意見を受けて、改めてパンフレット等見直してみると、情報が過多となっていて中学生には分かりづらいと高校サイドでも考えている。ついでに次年度見直す方向で動いているのでご了承いただきたい(2021年度版の学校案内を配付)

(意見) 自分の子どもが美瑛高校に通っていて、入って良かったと考えている。現在も中学生の子どもがおり、高校受検を考えていく時期にさしかかった際に、中学校からの進路指導において「旭川市内だと学力的にこのくらい」という趣旨でのお話も多く聞く。そういった観点で考えると、生徒も保護者も少ない情報の中で高校選びをしている面もあるのではないかな。それを打破するために、例えば(子どもが美瑛高校に通っている)保護者から中学生の保護者向けの説明会の場を設ける等、学校の先生方からではない、違った視点からの美瑛高校への推奨は効果があるのではないかな。

(意見) 次年度の最初のコミュニティ・スクールの会議において、近隣の同じような環境の高校と比較した検証を行ってもらいたい(他校には募集人員が多く来るのになぜ美瑛高校には来ないのか、どうしたら来るのか等)

(回答) 最初の会議の折に回答できるようにしたいと考える。結論としての回答は差し控えるが、近隣の学校の内上富良野については大凡6割の生徒が地元と聞いている。地元の中学校からの進学率を上げることも解決策の一つと考えている。

(意見) 多種多様な生徒が通うことが高校の意義であり、その点において美瑛高校の現状も同様であると考えている。現在連携している地域や関係機関との連携を更に強めながら、コミュニティ・スクールの一歩先を目指してこの協議会が運営できることを望む。

(3) 今後の美瑛高校学校運営協議会における協議事項について

(委員長から) この場にて意見を出していただくよりも、先に提示された「地域創生に向けた高校魅力化の手引き」を熟読いただき、次年度当初の運営協議会において意見を出してもらった方が良いのではないかと考える。その際、事務局の方から委員からの意見の吸い上げができるような工夫や準備を進めていただきたい。→事務局了承

5 まとめ

- ・次年度の美瑛高校学校運営協議会の会議上において、協議事項の審議及び検討を図っていく。